

21世紀の美術館：その生き残りの戦略

日 時：2006年1月28日(土) 午前9時30分～午後6時40分
2006年1月29日(日) 午前9時30分～午前12時

会 場：湘南国際村センター(神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39)

主 催：財団法人かながわ学術研究交流財団、日本経済新聞社

助 成：独立行政法人国際交流基金

後 援：文化庁

協 賛：サントリー、資生堂、損保ジャパン、東芝国際交流財団、トヨタ自動車、
日本写真印刷、三井物産

協 力：日本航空

名誉監修者：高階秀爾／大原美術館長、西洋美術振興財団理事長

総 監 修：蓑 豊／金沢21世紀美術館長、大阪市立美術館長

◆日・英同時通訳

プログラム 第2部 1日目 2006年1月28日(土)

- 9:30 開会挨拶
福原義春／かながわ学術研究交流財団理事長
- 9:40 趣旨説明
(議長)
蓑 豊／金沢21世紀美術館長、大阪市立美術館長
- 10:00 セッション1「21世紀の美術館はどうあるべきか」
基調講演「21世紀のミュージアム：拝むところか？宝の山か？」
マーク・ジョーンズ／イギリス ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長
討議
- 11:20 コーヒーブレイク
- 11:40 討議
- 13:00 昼食
- 14:00 セッション2「学芸員は何をすべきか」
基調講演「収集することと見せること—ミュージアムの役割とは？」
アルフレッド・バックマン／フランス ポンピドゥー・センター国立近代美術館長
討議
- 15:20 コーヒーブレイク
- 16:00 セッション3「生活と美術館」
基調講演「現代アート、観客、そして新たな技術」
ニール・ベネズラ／アメリカ サンフランシスコ近代美術館長
討議
- 17:20 セッション4「人間形成と美術館」
基調講演「公式化すべきか？脱公式化か？—芸術と人間形成についての考察と事例」
ラース・ニッティヴ／スウェーデン スtockホルム国立近代美術館長
討議
- 18:40 第1日目終了

プログラム 第2部 2日目 2006年1月29日(日)

- 9:30 セッション5「次世代の豊かな人材を育むために」
基調講演「私の挑戦」
(議長)
蓑 豊／金沢21世紀美術館長、大阪市立美術館長
- 10:30 休憩
- 10:40 総括討議
- 11:50 閉会挨拶
福原義春／かながわ学術研究交流財団理事長
- 12:00 会議終了

※ 1月28日、29日開催のかながわ円卓フォーラムは
関係者によるセミ・クローズド方式で行われます。
※ かながわ円卓フォーラム問い合わせ先：
財団法人 かながわ学術研究交流財団
TEL.046-855-1822

21世紀、美術館は生き残れるか？

日 時：2006年1月27日(金) 午後1時～4時30分
会 場：日経ホール(東京都千代田区大手町1-9-5 日本経済新聞社8階)
主 催：日本経済新聞社、財団法人かながわ学術研究交流財団
助 成：独立行政法人国際交流基金
後 援：文化庁
協 賛：サントリー、資生堂、損保ジャパン、東芝国際交流財団、トヨタ自動車、
日本写真印刷、三井物産
協 力：日本航空
名誉監修者：高階秀爾／大原美術館長、西洋美術振興財団理事長
総 監 修：蓑 豊／金沢21世紀美術館長、大阪市立美術館長

◆日・英同時通訳

プログラム 第1部 2006年1月27日(金)

13:00 開会挨拶

杉田亮毅／日本経済新聞社代表取締役社長

13:10 基調講演

河合隼雄／文化庁長官
「21世紀、美術館は生き残れるか？」

13:40 パネルディスカッション

(コーディネーター)

蓑 豊／金沢21世紀美術館長、大阪市立美術館長

(パネリスト) (順不同)

マーク・ジョーンズ／イギリス ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長
「21世紀のミュージアム：拝むところか？宝の山か？」

アルフレッド・バックマン／フランス ポンピドゥー・センター国立近代美術館長
「収集することと見せること—ミュージアムの役割とは？」

ニール・ベネズラ／アメリカ サンフランシスコ近代美術館長
「現代アート、観客、そして新たな技術」

ラース・ニッティヴ／スウェーデン スtockホルム国立近代美術館長
「公式化すべきか？脱公式化か？—芸術と人間形成についての考察と事例」

(途中15分の休憩あり)

16:30 閉会

基調講演

河合 隼雄

文化庁長官



1928年兵庫県生まれ。臨床心理学者。京都大学名誉教授。京都大学教育学博士。2002年より文化庁長官。1952年京都大学理学部卒業後、アメリカ留学を経て、スイスユング研究所で日本人として初めてユング派分析家の資格を取得。日本におけるユング分析心理学の理解と実践に貢献。また、神話や昔話(ファンタジー)の研究も行い、海外の神話との比較研究、日本文化論等を臨床心理学者としての立場から国内外の講演等を通じて多く発表している。

1982年の『昔話と日本人の心』で大佛次郎賞、1988年『明恵 夢を生きる』で新潮学芸賞受賞。その他『中空構造日本の深層』、『とりかへばや、男と女』など著作や論文は多数あり、近著として『ナバホへの旅 たましいの風景』、『臨床心理学ノート』、『神話と日本人の心』、『大人の友情』などがある。故小淵首相の私的諮問機関「21世紀日本の構想」懇談会の座長、教育改革国民会議委員、文部科学省顧問を務めるなど、日本の政治、教育に幅広く貢献している。1995年紫綬褒章受章、2000年文化功労者顕彰。

Hayao Kawai

パネリスト

アルフレッド・パックマン

ボンピドゥー・センター国立近代美術館長



1948年生まれ。パリ大学で美術史研究を終了後、国立現代美術センター企画担当者となる。同センターで自身初めての展覧会を企画し、同時に第7回パリ・ピエンナーレ展(1971年)と72年度の展覧会「フランスにおける現代美術の12年」(1972年)の企画運営を担当。

ボンピドゥー・センターのスタッフに加わり、国立近代美術館で現代美術担当の学芸員を務めた(1974年-1987年)。その後、ジュ・ドゥ・ポーム国立美術館長(1990年-1993年)となり、1993年から1996年までは文化コミュニケーション省造形美術担当責任者を務める。1996年、国立高等美術学校の校長となり、2000年9月にはボンピドゥー・センター国立近代美術館長に任命された。

学芸員としてフランス内外で数多くの展覧会の企画運営を行う。また、批評家兼美術史家でもあり、フランク・ステラ、リチャード・セラ、アンリ・ミショー、クロード・ヴィアラに関する研究や、フランスの美術に関する数多くのエッセーも発表している。

国際美術評論家連盟(AICA)および国際博物館会議(ICOM)の会員。2004年10月3日、現代美術の博物館とコレクション国際委員会(CIMAM)の委員長に選出される。

Alfred Pacquement

パネリスト

ラーズ・ニッティヴ

ストックホルム国立近代美術館長



1953年ストックホルム生まれ。1978年から85年までストックホルム大学で美術史の講師を務めた。ストックホルムの日刊紙『スヴェンスカ・ダグブラデト』やニューヨークのアートマガジン『アートフォーラム』などにも批評家として定期的に寄稿している。

1986年ストックホルム国立近代美術館の主任学芸員に任命され、その後1990年から1995年まで、スウェーデンのマルメにあるローゼウムの館長を務める。1995年7月、デンマークのフムレベックにあるルイジアナ近代美術館長就任。1998年、2000年5月開館予定であったテート・モダンの館長に任命される。2001年11月1日、ストックホルム国立近代美術館長に就任。

同氏はこれまでに、大型展覧会の企画運営や国際賞の審査員を数多く務めてきた。スウェーデン内外の雑誌や目録の記事執筆に加え、美術に関する著作も数冊発表している。

Lars Nittve

コーディネーター

蓑 豊

金沢21世紀美術館長、大阪市立美術館長



金沢市生まれ。慶応大学文学部卒業後、ハーバード大学文学博士号取得。現在、金沢市助役、金沢21世紀美術館館長兼大阪市立美術館館長。2001年より全国美術館会議会長。2005年4月より金沢市助役。モントリオール、インディアナポリス、シカゴ各美術館の東洋部長を歴任。著作に「遠時代の陶磁器展」、「磁州窯系陶磁器」、「クレマンソーコレクションの香合展」、「白磁」ほか多数。

Yutaka Mino

パネリスト

マーク・ジョーンズ

ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長



現在54歳、2001年5月からビクトリア&アルバート美術館長職にある。国立スコットランド博物館長在職中には、新たなテクノロジーを利用して博物館、ギャラリー、アーカイブなどの所蔵品へのアクセスを提供し、それら資料を用いたインターネット用教材を作り上げるSCRAN(スコットランド文化資源アクセスネットワーク)の創出にも積極的に関わった。

オックスフォード大学ウースター・カレッジで哲学、政治学、経済学を修め、コートールド美術研究所で修士号を取得。1969年のシンガポール国立博物館における半年間の勤務を含め、大英博物館コイン・メダル部長補佐(1974年-1990年)および同部長(1990年-1992年)などを歴任。

現在、ルイ14世の(彫像)メダルに関する書物の執筆中で、専攻の学問分野に対して意欲的に取り組んでいる。エジンバラ大学名誉教授、エジンバラ学士院会員、ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ(ロンドン大学)名誉文学博士。

Mark Jones

パネリスト

ニール・ベネズラ

サンフランシスコ近代美術館長



シカゴ美術館において、副館長及び現代美術を対象とするフランス・アンド・トマス・ディットマー基金による学芸員を兼任後、2002年8月よりサンフランシスコ近代美術館長を務める。シカゴ美術館奉職以前のスミソニアン協会時代、同氏が企画した展覧会「ブルース・ナウマン」が米国大学芸術協会から「優秀展示賞」を、国際美術評論家連盟から「最優秀展示カタログ」と「最優秀美術館展示」の第二席を受賞。また、「マーティン・ブリーエ」についても、「1992年度優秀展示賞」と「1991-92年卓越した美術館展示賞」を受賞した。

2004年春には「ポップ!サンフランシスコのコレクションから」を共同で企画。同氏はビュー芸術フェローシップ、米国国立芸術基金、および米国国立人文基金のパネリストを務めてきた。カリフォルニア大学サンフランシスコ校の芸術諮問委員会のメンバーであり、また選出委員として美術館長協会(AAMD)、および現代美術の博物館とコレクション国際委員会(CIMAM)にも名を連ねている。

1983年スタンフォード大学にて博士号を取得。

Neil Benezra